

## 湖北らしい果樹産地の育成 「広がるカキ太秋」

湖北地域振興局農産普及課

### 【普及活動のねらい・対象】

稲作農家の経営複合化、集落営農の安定化、<sup>はなやか</sup>直売所の活性化のために果樹栽培を推進しています。中でも、湖北地域振興局で選定した「花野果たわわ」ブランドのひとつとして、カキ「太秋」を湖北らしい新たな園芸品目として導入を誘導しました。

### 【普及活動の成果】

西浅井町

町内農家へ普及を目的に「奥びわこ水の駅」では、直営でポット柿を平成17年度から19年度まで3年間で180本栽培され、うち60本が成木化し、約1500個を販売しました。ハウス栽培との組み合わせで1ヶ月の間、販売が継続され、特産の手応えがありました。

平成21年9月にはガラス温室が併設される予定で、さらに量産が計画されています。

木之本町

黒田集落で約1haの面積があり、平成17年度植栽分の約50aについて、今年度から収穫が始まりました。黒田集落は、戦国の軍師、黒田官衛兵（のちに「黒田如水」）を輩出した福岡城主黒田家発祥の地であり、これにあやかり、黒田如水柿と名付けられました（黒田家の同意のもと、「如水柿」して商標出願中）。湖北町水鳥ステーションやJR木之本駅直売所で販売されました。また、湖北地域の旅館等からの問い合わせも多く、旬を紹介できる地元農産物への期待が大きいことに生産者は意を強くしました。

この他、米の直販を行う農家が経営力向上を図り、固定客を確保するために、太秋に取り組むなど、管内10ヶ所で太秋の栽培が始まりました。太秋は評判どおり、カキ品種の中で優れた品質特性を持つカキですが、その栽培技術は難しいと評価されています。よって、人気の割りには広まらず、県内では湖北地域が最大規模となっているようです。



黒田如水柿「太秋」の初出荷



10・15カキ太秋栽培研修会を開催